

世界史

注意事項

- I 試験開始の指示があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- II 解答用紙はすべて黒鉛筆(HB)〈シャープペンシルは、HB 0.5 mm 以上の芯であれば使用可〉で記入することになっています。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- III 解答用紙右端の出席票に印刷されている受験番号を確認してください。間違いがなければ氏名欄に署名し、切取線から切り離してください。
- IV 試験時間は 60 分です。
- V 問題は 11 ページで大問 4 問です。

マーク記入上の注意

1. 解答欄にマークするときは、HBの黒鉛筆で次の正しい例のように、濃く正確にぬりつぶしてください。

2. マークのしかた

(ア) 正しい例

a 解答が1つの場合、例えばイと解答するときは

(1)

ア	イ	ウ	エ	オ
---	---	---	---	---

 のように、マークしてください。

b 解答が2つの場合、例えばイとウと解答するときは

(1)

ア	イ	ウ	エ	オ
ア	イ	ウ	エ	オ

 または (1)

ア	イ	ウ	エ	オ
ア	イ	ウ	エ	オ

 のように各1つずつマークしてください。

(イ) 悪い例

<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>(1)</td><td>ア</td><td>イ</td><td>ウ</td><td>エ</td><td>オ</td></tr> <tr><td>(2)</td><td>ア</td><td>イ</td><td>ウ</td><td>エ</td><td>オ</td></tr> <tr><td>(3)</td><td>ア</td><td>イ</td><td>ウ</td><td>エ</td><td>オ</td></tr> <tr><td>(4)</td><td>ア</td><td>イ</td><td>ウ</td><td>エ</td><td>オ</td></tr> <tr><td>(5)</td><td>ア</td><td>イ</td><td>ウ</td><td>エ</td><td>オ</td></tr> </table>	(1)	ア	イ	ウ	エ	オ	(2)	ア	イ	ウ	エ	オ	(3)	ア	イ	ウ	エ	オ	(4)	ア	イ	ウ	エ	オ	(5)	ア	イ	ウ	エ	オ	<p>○印でかこむ。</p> <p>全部をぬりつぶしていない。</p> <p>レ印をつける。</p> <p> 印をつける。</p> <p>1欄に2つ以上マークする。</p>	<p>} このような記入をしてはいけません。</p>
(1)	ア	イ	ウ	エ	オ																											
(2)	ア	イ	ウ	エ	オ																											
(3)	ア	イ	ウ	エ	オ																											
(4)	ア	イ	ウ	エ	オ																											
(5)	ア	イ	ウ	エ	オ																											

3. 一度記入したマークを訂正する場合は、消しゴムで完全に消してから記入しなおしてください。

(1)

ア	イ	ウ	エ	オ
---	---	---	---	---

 のように×印をしても消したことはありません。

4. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、また汚したりしないでください。

〔 I 〕 次の文の(1)～(10)に入れるのに最も適当な語句を下記の語群から選び、その記号をマークしなさい。

16世紀半ば以降、ヨーロッパから東アジアに渡来したキリスト教宣教師たちの活動は、東アジアの科学技術の発展に貢献するとともに、ヨーロッパにおける東アジア理解にも寄与した。

16世紀末に中国を訪れた(1)は、中国最初の世界地図『(2)』を作製した。また、(3)は徐光啓とともに暦法の改訂をおこない、西洋暦法に基づく『(4)』を刊行した。(3)の暦はその後清朝でも採用され、(3)は欽天監の長官に任命されるなど重用された。(3)の後を継いで清朝の暦法をつかさどった(5)は、呉三桂らがおこした(6)を鎮圧するための大砲を鑄造したことでも知られる。(5)が1674年に作製した世界地図『坤輿全図』は、清朝が1689年にロシアとの間で締結した(7)における国境画定に影響を与えた。(7)では、宣教師のペレイラやジェルビヨンらが清朝使節に同行して交渉を助けた。また、1717年には、清朝康熙帝の命を受けたレジスや(8)が中国全土の実測図である『(9)』を作製した。

その後、1735年にイエズス会士デュ=アルドがフランスで刊行した『中国全誌』には、『(9)』をもとに地理学者のダンヴィルが作製した精緻な中国地図や、(5)やジェルビヨンらの旅行記など、宣教師たちのもたらした貴重な情報が収録された。このデュ=アルドの『中国全誌』は18世紀の啓蒙思想家たちにも親しまれ、影響を受けたフランスの(10)は、著書『法の精神』の中で中国の政治制度についても論じている。

〔語群〕

- | | | |
|--------------|--------------|-------------|
| (ア) 崇禎暦書 | (イ) ネルチンスク条約 | (ウ) 授時暦 |
| (エ) 皇輿全覧図 | (オ) ヴォルテール | (カ) ブーヴェ |
| (キ) モンテスキュー | (ク) アダム=シャルル | (ケ) キャフタ条約 |
| (コ) 李自成の乱 | (サ) フェルベースト | (シ) マテオ=リッチ |
| (ス) 三藩の乱 | (セ) プラノ=カルピニ | (ソ) アイグン条約 |
| (タ) 坤輿万国全図 | (チ) ルソー | (ツ) 時憲暦 |
| (テ) カスティリオーネ | (ト) 紅巾の乱 | |

〔Ⅱ〕 歴史上の人物 X, Y についての記述を含む次の文の (1) ~ (10) に入れるのに最も適当な語句を, { } 内の (ア) ないし下記の語群から選び, その記号をマークしなさい。

19 世紀のヨーロッパ諸国では, 人々の生活や政治・経済に大きな変革がもたらされた。イギリスでは (1) { (ア) トーリ } 党の内閣のときに実現した 1832 年の第 1 回選挙法改正によって, 腐敗選挙区が廃止されるなど選挙区が再編されるとともに選挙資格も拡大した。一方, 労働者が人民憲章で掲げた男性普通選挙の要求はなかなか実を結ばず, 第一次世界大戦が終結した (2) { (ア) 1916 } 年によろやく 21 歳以上の男性と 30 歳以上の女性に選挙権が拡大された。

フランスでは, 皇帝ナポレオン 1 世の没落により, (3) { (ア) シャルル 10 世 } が王位につきブルボン朝が復活した。(3) を継いだ X が, きびしい制限選挙制をとり反動政治を行うと, 1830 年に (4) { (ア) 七月 } 革命がおり, X は亡命し (5) { (ア) シャルル 9 世 } が即位したが, (5) もまた, 1848 年の革命で王位を失った。

1848 年の革命は, ドイツ, オーストリアにも波及し, ウィーンやベルリンで蜂起がおこるとともに, ハンガリーで (6) { (ア) コシュエシコ } の指導下に (7) { (ア) チェック } 人の民族運動がおこったように, 各地で民族運動が高揚し, 「諸国民の春」とよばれる状況が現出した。イタリアでは, マツイーニらによって 1849 年にローマ共和国がたてられたが, (8) { (ア) メッテルニヒ } を宰相とするオーストリアの軍隊の介入で倒された。

長らく分裂状態にあったドイツでは, 1848 年の革命的状況のなかで国家統一の達成と憲法制定のため諸邦の代表がフランクフルト国民議会に結集した。このとき, 統一の形態としては, 大ドイツ主義とオーストリアを除外したプロイセン中心の小ドイツ主義が対立した。プロイセンは, 18 世紀初頭におこった (9) { (ア) 南ネーデルラント継承戦争 } で神聖ローマ皇帝をたすけて王国に昇格し, 1713 年に即位した 2 代目の王 (10) { (ア) フリードリヒ 2 世 } のもとで軍備や行政を整え, その後も勢力を拡大して列強の一員となった国であった。

保守勢力が巻き返すなかでプロイセン国王はフランクフルト国民議会が申し出

たドイツ皇帝の地位を拒否し、1850年に欽定憲法を發布した。その後、1862年に国王Yによって首相に任ぜられたビスマルクは鉄血政策で軍備を拡張、プロイセンの軍事力を中心にしてドイツ統一が進められていった。

[語群]

- | | | |
|---------------------|---------------------|-----------|
| (イ) フリードリヒ=ヴィルヘルム1世 | (ウ) 第二共和政期のフランス | |
| (エ) コシュート | (オ) アレクサンドル1世時代のロシア | |
| (カ) スロヴェニア | (キ) オーストリア継承戦争 | |
| (ク) 二月 | (ケ) 1920 | (コ) マジャール |
| (サ) ヴィルヘルム1世 | (シ) 十月 | (ス) 1918 |
| (セ) ナジ=イムレ | (ソ) ルイ16世 | (タ) 労働 |
| (チ) ルイ18世 | (ツ) ルイ=フィリップ | (テ) ホイッグ |
| (ト) スペイン継承戦争 | (ナ) ヴィルヘルム2世 | |

〔Ⅲ〕 次の文の(1)～(10)に入れるのに最も適当な語句を下記の語群から選び、その記号をマークしなさい。また、問1～5について、それぞれ答えなさい。

中国の歴史をひもとくと、北方や東北方に騎馬遊牧民や狩猟民の集団の名を見出すことができる。かれらは、時には中国の王朝に脅威をあたえ、時には中国に進出してみずから中国を支配する王朝を建てた。ユーラシア大陸の東部の歴史は、中国の王朝とこれらの諸勢力の攻防と興亡の歴史とみることさえ可能である。

はじめて中国を統一した秦や、それについで漢王朝の時代、その北方には(1)^①がおり、中国の王朝に脅威をあたえていた。(1)は後漢の時代に南北に勢力が分裂し、勢力はやや弱まったように見えた。しかし、西晋内部の権力争いである八王の乱に乗じて西晋領内の(1)が自立すると、その一種族である羯や東モンゴルからおこった(2)、西方の羌や氐があいついで北中国で政権を樹立していった。その中から頭角をあらわしたのが(2)の一部族が建てた北魏であった。この時代、その北方には(3)が出現して草原世界の覇者となり、北魏と対立した。ところが、6世紀には、(3)はその支配下にあった(4)によって滅ぼされてしまう。(4)は中国が分裂している状況を利用し、中国東北地方から中央アジアにおよぶ大帝国を建設することに成功する。しかし、隋を建国した文帝のたくみな戦略によって、(4)は東西に分裂する。それでも東(4)は強力な騎馬軍事力を持ち、李淵が唐を建国する際、これを援助している。しかし、東(4)は、唐の第2代皇帝の時に滅ぼされ、唐の羈縻支配下に入った。そのおよそ50年後に、一度、独立を果たすが、8世紀半ばに(5)によって滅ぼされる。(5)は、安史の乱の鎮圧では唐朝を援助したが、やがて唐朝を圧迫した。しかし、9世紀前半に、キルギスの攻撃によって滅びた。その一部の集団は西へ移動した。

(5)の滅亡後、中国北方の草原世界では、それに代わる遊牧勢力が勃興せず、かわって東北方面で(6)が台頭してきた。10世紀はじめ、かれらは、ある人物のもとで統合され、国家を形成した。この国は宋と対立したが、11世紀のはじめに和議を結んだ。また宋の西北方面でも(7)が勢力をのばして国^③を建てた。12世紀になると、(6)の支配下にあった(8)が独立し、国

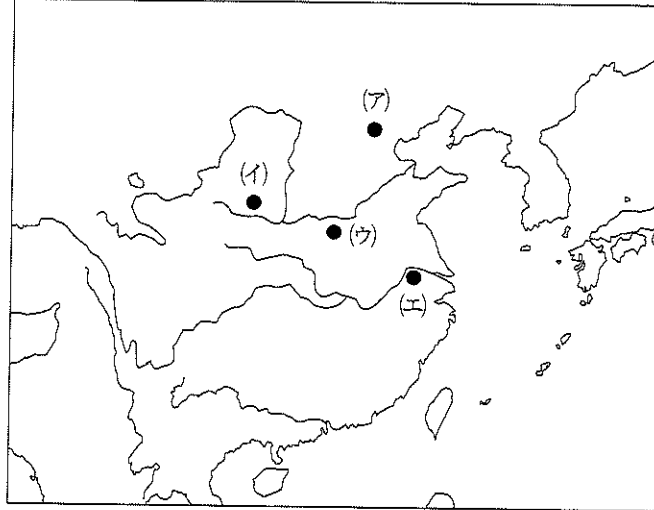
を建てた。この国は宋と結んで(6)国を滅ぼし、さらに宋を攻撃して、中国の北半分を支配することとなった。一方、(6)国が滅んだことにより、中国北方の草原世界でも、新たな遊牧勢力が台頭してきた。それが(9)である。13世紀のはじめ、(9)はある有力な人物のもと、勢力を統一し、ユーラシア全域にまたがる大帝国を建設した。彼の息子は(8)の建てた国をたおし、また孫は南宋を滅ぼして中国全土を支配下に入れた。しかし、中国を支配していた(9)^④も、14世紀になると北方の故地に撤退し、その後、中国に誕生した明と貿易関係をめぐって争った。17世紀になると、中国東北方面で明の⑤間接支配にあった(8)が台頭し、やがて(10)と民族名をあらため、中国を支配する王朝を建国するにいたった。

〔語群〕

- | | | | |
|------------|----------|-----------|----------|
| (ア) 女真 | (イ) エフタル | (ウ) ブルガール | (エ) 鮮卑 |
| (オ) ランゴバルド | (カ) モンゴル | (キ) 満洲 | (ク) ウズベク |
| (ケ) 南詔 | (コ) 突厥 | (カ) 烏孫 | (シ) 匈奴 |
| (ス) タンゲート | (セ) 契丹 | (ソ) 大理 | (タ) チベット |
| (チ) 柔然 | (ツ) 南越 | (テ) マジャール | (ト) 靺鞨 |
| (ナ) チャム | (ニ) 大宛 | (ヌ) ウイグル | (ネ) 月氏 |
| (ノ) クライシュ | | | |

問1 下線部①の都の場所として最も適当なものを下図の(ア)～(エ)から一つ選び、その記号をマークしなさい。

【地図】



問2 下線部②に関して述べた次の文(ア)～(エ)のうち、最も適当なものを一つ選び、その記号をマークしなさい。

- (ア) 官吏任用制度として九品中正(九品官人法)が始められた。
- (イ) 占田・課田をおこなった。
- (ウ) 司馬遷が『史記』をまとめた。
- (エ) 都を長安に置いた。

問3 下線部③の和議に関連して述べた次の文(ア)～(エ)の中から、最も適当なものを一つ選び、その記号をマークしなさい。

- (ア) 両国は、外興安嶺とアルゲン川を国境とした。
- (イ) 宋は理藩院を置き、外交を担当させた。
- (ウ) (6)は毎年、トウモロコシ・サツマイモを宋へおくった。
- (エ) 宋は毎年、絹・銀を(6)へおくった。

問4 下線部④に関連して述べた次の文(ア)～(エ)の中から、最も適当なものを一つ選び、その記号をマークしなさい。

- (ア) 開封を都とした。
- (イ) 一条鞭法によって財政を改革した。
- (ウ) 朱熹が宋学を大成した。
- (エ) 司馬光が『資治通鑑』を編纂した。

問5 下線部⑤に関連して述べた次の文(ア)～(エ)の中から、最も適当なものを一つ選び、その記号をマークしなさい。

- (ア) 中書省を復活し、丞相を政治の中樞とした。
- (イ) 科学技術への関心が高まり、『天工開物』が著わされた。
- (ウ) はじめ都を北京に置き、永楽帝の時に南京へうつした。
- (エ) 海外交易は広州1港に制限し、公行に管理させた。

〔Ⅳ〕 歴史上の人物 X, Y についての記述を含む次の文の (1) ~ (15) に入れるのに最も適当な語句を, { } 内の (ア), (イ) ないし下記の語群から選び, その記号をマークしなさい。

ユーラシア大陸の北部を原住地とするインド=ヨーロッパ語系の人々は, ユーラシアの各地に移住し, 移り住んだ先々で大きな影響をおよぼした。

前 1500 年頃, インダス川の流域に移動してきたアーリア人は, その後ガンジス川の流域にも進出し, インド文明の形成に大きな役割をはたした。

一方, 古代オリエント世界で活動したインド=ヨーロッパ語系の人々としては, ヒッタイト人やイラン人(ペルシア人)がいる。アナトリア高原に建国したヒッタイトは, メソポタミアに遠征して (1) { (ア) アッカド (イ) アムル } 人がたてたバビロン第 1 王朝をせめるなどした。一方, ヒッタイト以上に強大な勢力となったのがイラン人である。ニネヴェを首都として全オリエントを支配したアッシリアの統一が崩壊した後, オリエント世界にはイラン高原の (2) { (ア) ミタンニ (イ) パルティア }, 小アジアの (3) { (ア) カッシート (イ) バクトリア } など 4 国が分立した。前 6 世紀半ばよりイラン人はこれらをあいついで征服, オリエント全体を統一してアケメネス朝の大帝国を築き上げた。

イラン人がめざましい勢いで勢力を伸ばしつつあったころ, 地中海東部ではインド=ヨーロッパ語系のギリシア人がポリスを拠点に活動していた。ポリスの一つであったアテネでは前 6 世紀の初頭に (4) { (ア) ソロン (イ) リュクルゴス } が貴族と平民のあいだの調停者として改革にたずさわり, 同世紀の半ばには (5) { (ア) テミストクレス (イ) ペイシストラトス } が僭主政治を確立した。その後, ギリシア人はイラン人のアケメネス朝と軍事的に衝突することとなった。

衝突のきっかけは, (6) { (ア) クノッソス (イ) ティリンス } を中心とするイオニア地方のギリシア人植民市のアケメネス朝に対する反乱であり, 反乱を支援したギリシアに対してペルシアは遠征軍を派遣した。ペルシア軍とギリシア軍のあいだには海と陸で激しい戦いが繰り広げられた。前 480 年のサラミスの海戦でペルシアを破ったギリシア側は翌年, (7) { (ア) マラトン (イ) カイロネイア } の戦いで勝利を決定的なものにした。

その後、マケドニアのXが、マケドニアとギリシアの連合軍をひきいて、東方遠征を行い、ペルシアを滅ぼし、広大な地域を征服した。こうして成立した大帝國は、Xの死後、部下の将軍がたてた(8){{ア} プトレマイオス朝エジプト (イ) アンティゴノス朝マケドニア}などの諸国に分裂する。Xの東方遠征から前30年に(8)が滅亡するまでの約300年間を、ヘレニズム時代と呼ぶ。ヘレニズム時代には、太陽中心説をとらえた(9){{ア} エウクレイデス (イ) アリストアルコス}が出るなど自然科学が発達した。また、思想・哲学の面では(10){{ア} エピクロス (イ) プロタゴラス}を祖として禁欲を説いたストア派などが盛んになった。

ギリシアの西方、イタリア半島ではインド=ヨーロッパ語系のラテン人の一派がティベル川のほとりに都市国家ローマを築いた。ローマでは、貴族と(11){{ア} コロヌス (イ) ベリオイコイ}と呼ばれた平民との身分差があり、両者のあいだに身分闘争がおこったが、前287年の(12){{ア} ホルテンシウス法 (イ) リキニウス・セクスティウス法}により平民会の決議が元老院の認可なしに国法となり、貴族と平民の政治上の権利が同等となった。都市国家からイタリア半島全域に勢力を拡大していったローマはフェニキア人の植民市カルタゴと衝突し、3回にわたるポエニ戦争を戦った。第2回ポエニ戦争ではカルタゴ軍がイタリア半島に侵入し、ローマは一時、危機に陥ったが(13){{ア} ハンニバル (イ) スキピオ}の活躍などで最終的に勝利した。その後もローマは勢力を伸張し地中海世界全体を支配するようになった。

一方、ローマの北方ではインド=ヨーロッパ語系のケルト人がヨーロッパの広い地域に住みついていた。ケルト人の居住地の一つで、ほぼ現在のフランスにあたるガリアに遠征したのがYである。前60年に(14){{ア} アントニウス (イ) レピドゥス}らと私的な政治同盟を結んで第1回三頭政治を行ったYが残したガリアへの遠征の記録である『ガリア戦記』は、ラテン語の散文の名文とされている。一方、叙事詩では(15){{ア} ホラティウス (イ) オウイディウス}の作品であるローマ建国叙事詩『アエネイス』が有名である。

〔語群〕

- | | | |
|---------------|-------------|-------------|
| (ウ) 十二表法 | (エ) プレブス | (オ) マリウス |
| (カ) タレス | (キ) テルモピレー | (ク) ヘラクレイトス |
| (ケ) ミレトス | (コ) ペリクレス | (サ) プラタイア |
| (シ) 新バビロニア | (ス) パトリキ | (セ) メディア |
| (ソ) アラム | (タ) ゼノン | (チ) スラ |
| (ツ) デモクリトス | (テ) カエサル | (ト) ウェルギリウス |
| (ナ) リディア | (ニ) クラッスス | (ヌ) ウル第3王朝 |
| (ネ) セレウコス朝シリア | (ノ) クレイステネス | |

(以上)